

ニガクリタケ（モエギタケ科）

毒成分：ファシキュロール類、ムスカリン類

春～秋に林内の切り株や枯れた幹などに群生する。生命力が強い、木材腐朽菌。傘は饅頭形～扁平、表面は黄色、中央やや褐色をおびる。ヒダは成熟するとオリーブ褐色となり、密。柄の長さは 4～10cm、中空、上部に繊維状のつばがあるがわかりにくい。死亡例は、テングタケ属のドクツルタケ・シロタマゴテングタケの次に多い。日本の北国地方では、本種を毒抜きして食べる習慣がある。



ニガクリタケ：2003/10/12 第13回きのこ展に展示されていたもの（京都市吉田山で採取）